

不登校の子どもと保護者の居場所づくりをめざして

ぼちぼちの挑戦

“無理をせず、ゆっくりと、できる範囲で、末永く続けていく”

不登校の子どもと保護者の居場所『ぼちぼち』
学校や家庭と異なる第三の居場所を作ることが
目的に2018年に創設しました。支援する側・さ
れる側という関係でなく、“かかわる人すべてに
って安心して居られる場所”を作っています。



代表 岩元 由紀

SOCIAL BACKGROUND

対象者



不登校の小中高生とその保護者

- 国（文科省・総務省）、県、市のデータ
 - ・不登校児童・生徒は増加傾向
 - ・令和4年度の時点で過去最多（現増加中）
 - ・県内2万人・クラスに2人以上、市内400人
- 同等数いる保護者の悩み
 - ・心理的安全面
 - ・相談相手不足

不登校児・生徒 への対応



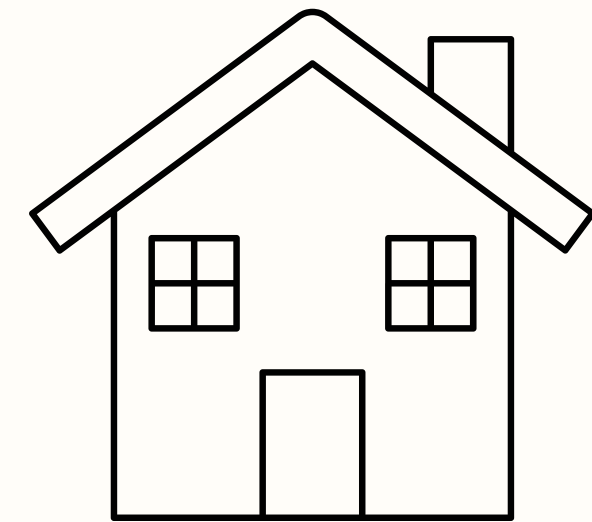
学業対策が主

不登校の原因や改善の手法に「学業支援」が数多く挙げられており、多くの施設で採用されています。一方で、人間関係や環境要因・心理的安全性の欠如・家庭内の課題の方が重要と考えられますが、この対応への供給は非常に少ないです。



02

保護者への対応



保護者支援団体は少ない

児童・生徒にかかる対策は、多くありますが、保護者支援に関しては、さまざまな相談窓口があるものの、その特性上、実情を理解・共感できるのは「経験者」にほかなりません。しかしながら、そうした窓口が少ないのが現状です。

WHY WE ARE DIFFERENT

活動実績

Achievements

03



「ぼちぼち」最大の特徴は、スタッフの8割が「ひきこもりの子を持つ経験者」であること。支援者というよりも、ほんの少し先を歩く“先輩”として、同じ目線で話を聴き、気持ちに寄り添うことができます。これは、他の団体とは異なる、ぼちぼちならではの「共感できる関係性」です。



定例活動

月3回開催、参加者年間100名

海老名市立わかば会館にて、トランプ・折り紙・楽器・会話などを通じて、子どもが“自分のまま”でいられる居場所を継続して提供。保護者の個別相談も併設しています。



進路相談会

年1回開催 参加者120名

通信制・定時制高校を中心に12校が参加。個別相談・卒業生の話・進学パンフレットの提供を通じて、子どもと保護者の不安軽減と選択肢拡大を図りました。年々、参加者数は増加中。



セミナー

年1回開催

交流会&セミナー参加者28名

セミナーでは、「NOとSOSを伝える力」「受援力の大切さ」などをテーマに、心理的安全性と傾聴の関わりについて専門的に学ぶ機会を作りました。

現在、「ぼちぼち」の活動は、スタッフ一人ひとりの強い想いと善意によって成立しています。立ち上げ当初から、同じ悩みを持つ保護者同士が“助け合いたい”という気持ちを原動力に、実際の居場所づくりを行ってきました。しかし、“想い”は確かに大切に尊いものの、仕事ではない観点などから、それだけでは継続的・安定的な運営には限界があることも感じています。スタッフの高齢化や生活環境の変化により、活動が続けられなくなるケースが出てくる中で、「想いのバトンをどう繋ぐか」という課題に直面しています。



	現状	解決方法
人材（量）	スタッフの高齢化 若年層の担い手不足 属人的な対応	若い保護者層への案内 モチベーションの向上策 参加しやすい環境づくり
育成（質）	学びの機会がなく、属人化 仕組みがなく、継承が困難	OJT・ロールモデルの可視化 事例共有・ケース検討会の実施 学びの場の提供
組織体制	一部メンバーに業務が集中 ＝永続的にならない 業務拡大・横展開が難しい	引継ぎができる仕組みづくり

人材育成と
仕組みづくり
が必要

OUR NEXT MOVE

課題解決と応募理由

solution

05



本事業を通じて、地域における居場所づくりのあり方を見つめ直し・広げていきたいです。受賞した際には、「人材育成」と「仕組みづくり」の両面において地域の支援力を底上げすることを目的として、2名の専門家に講演（勉強会）をオファーしたいと考えています。“安心できる居場所づくり”に向けて、現場スタッフと地域住民が学びを共有し、子どもたちの「生きる場」を共に育てていくための一歩にしたいという思いから、本事業に応募しました。

01

NPO法人

フリースペース「たまりば」

理事長・西野博之氏

不登校や困難を抱える若者たちの“居場所”として、行政に頼らず地域住民と共に寄り添い型支援を実践。「本人の声に耳を傾ける」姿勢を大切にし、子ども自身の力を信じる関わりを貫いてきた。現在も講演や著作を通じて、支援のあり方や教育の課題について発信を続けている。



02

世田谷区立桜丘中学校

元校長・西郷孝彦氏

横浜出身。教職歴40年以上。2008年より世田谷区立桜丘中学校校長として、校則の見直しや服装・髪型の自由化、定期テストの廃止など、生徒の自律と多様性を尊重する教育改革を実践。不登校・いじめゼロを目指し、「子どもが安心できる学校づくり」を推進。



THE FUTURE WE AIM FOR



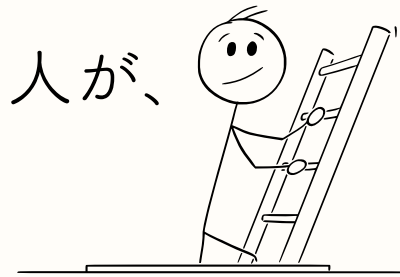
ぼちぼち、でも、たしかに歩いていく。私たちは、大きなことはできないかもしれません。

でも、できることを、できるときに、できる人が。そうやって、「ぼちぼち」と重ねてきた一步一步が、今の私たちを作っています。これからも、急がず、背伸びせず、無理なく。けれど、ちゃんと“誰かのそばにいる”ことを大切にしながら、歩いていきたい。そんな「ぼちぼち」の歩みの軸となる、使命・未来・価値観をご紹介します。

Mission | “ひとりじゃない”をつくる

引きこもりや不登校の子ども・親が「話せる人がある」と思える場を地域に届ける。

できることを、できるときに、できる人が、



Value (大切にしていること)

無理しない・・・できるときに、できることを。完璧を目指さないから続けられる。

寄り添う・・・答えを出さなくてもいい。ただそばにすることが力になる。

つながる・・・支援者・当事者という区別を越え、地域の仲間として共に歩む。

ゆるやかに育つ・・・成果を急がず、関係性や居場所をぼちぼち育てていく。

Vision | 地域のあちこちに、“ぼちぼち”がある未来

ひとつの大きな拠点じゃなくていい。

あの人、この場所、あのLINE...

つながりがぼちぼち点在し、小さな安心がまち全体に広がる未来へ。

